

一番茶における摘み取り適期の予測技術について

【研究のポイント】

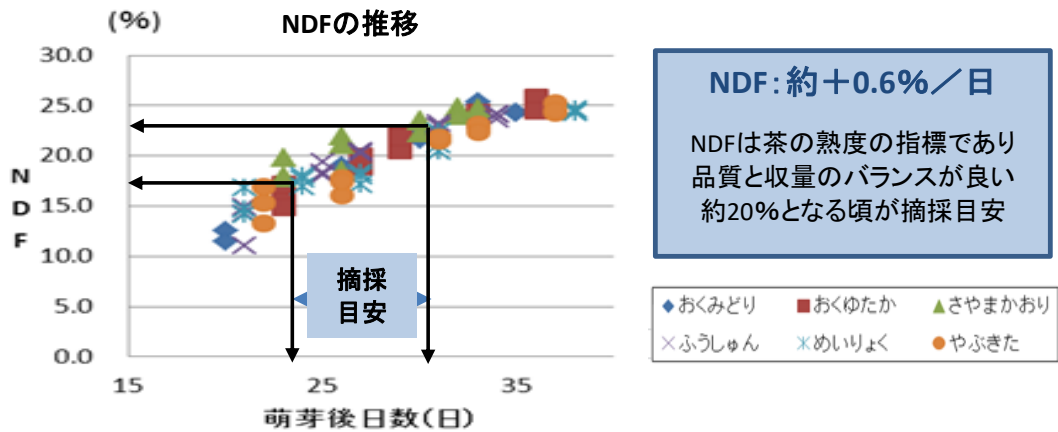
県内の茶産地では、茶を高品質な時期に出来るだけ多く摘採する(お茶を摘み取る)ことが望まれています。しかし事前に適期を予測するには長い経験が必要であり、摘みとり時期の判断に苦慮しているのが現状でした。
そこで、一番茶の摘採時期を予測する方法の確立に取り組みました。

【研究の成果】

- 1) 摘採までに生葉収量は一日あたり前日比約113%の速度で増加し、NDF(中性デタージェント繊維)は、前日対差約0.6%増加、全窒素は約-0.13%の速度で減少することが明らかになりました。
これは、主な多収品種である「おくみどり」、「おくゆたか」、「さやまかおり」、「ふうしゅん」、「めいりよく」、「やぶきた」で概ね同じ傾向となっています。
- 2) 摘採適期を予測するには、3葉期頃に採摘調査を行い、収量、成分を測定して、予測式にあてはめます。
- 3) 予測式については以下のとおりです。

$$X = (\text{目標NDF} - \text{実測NDF}) \div 0.6 \Rightarrow X \text{ 日後に摘採する}$$

たとえば、NDF18%の時期に摘採したい場合、新芽のNDFが12%であれば、



〔生産現場への普及〕大規模生産者を中心に、NDF値から摘採適期となる期間(約20%)を予測し、製茶加工計画に役立てています。

【生産者の声】



大規模な経営において生産計画は品質、量、売り上げに大きく影響してきます。当社では近赤外線分光器で生葉を分析して摘採予測日を計算し、品質の良いお茶ができるようにしています。
また、製茶加工時の生葉を圃場毎に分析して、予測と比較して次年度の対策に役立てています。こうして精度向上を図り、分機器導入前より140%売り上げが伸びています。

有限会社 豊後大分有機茶生産組合

【連絡先】

担当：農林水産研究指導センター 農業研究部 葉根菜類・茶業チーム
TEL：0974-28-2082 (問い合わせは企画指導担当へ)
住所：大分県豊後大野市三重町赤嶺2328-8